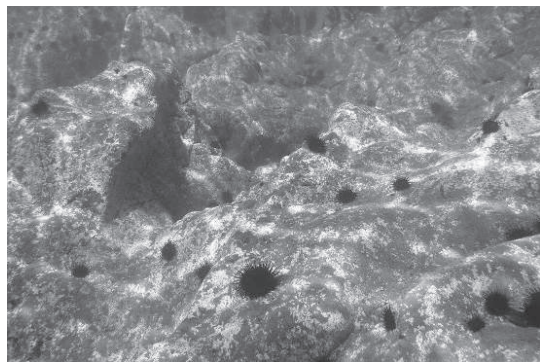


“磯焼け”の研究に期待

〈道外5大学の研究者が来町〉

8月30日、横浜大学、愛知県立大学、名古屋大学、立教大学、関西学院大学の教授や学生など10名が当町を訪れ、磯焼けの進行が著しい北海道日本海で、長年、漁業者が様々な取組を行っている当町の活動を先駆的な事例として視察しました。



磯焼けの状況

今回訪れた10名は、各大学

で海の重要な資源である海藻類が減少し、岩肌が白い石灰層化する。磯焼け“に関する研究に取り組んでおり、この日は、東しゃこたん漁協職員と役場水産担当者から、当町のウニなどの浅海漁業の着業状況や漁獲量の推移、磯焼けに対する取組等の説明を受けました。

深刻な磯焼けの影響

磯焼けは、海の環境変化により有用な海藻類が失われる現象で、海の花藻類は、魚の産卵場所となっており、海藻が減少することが魚類資源の減少に繋がります。また、海藻類が減少することでウニの餌が少なくなり、身入りや色、



ウニの除去作業

食味の良くないウニが多くなってしまうという影響があります。そのため、磯焼けから海藻を守ることは重要な課題なのです。

“積丹のウニ”と磯焼けとの戦い

海藻は、主に海水温度が低下する10月頃に種を出し、岩肌に付着し、春にかけて生長します。しかし、腹がすいたウニが成長前の海藻の芽を食べてしまう“食害”で、磯

焼けが進行してしまっています。

そのため、漁業者がウニの除去作業で、冬期間のウニの食害から海藻を守る取組を行っています。

美国・美しい海づくり協議会（神哲治会長）では、若い会員が中心となって磯焼け漁場からウニを除去し、そこへ漁業者がコンブの母藻や栄養塩を供給し成長を促がし、さらに藻場再生の経過を見守る取組を行っています。



コンブ母藻の設置

また、余別・海HUGくみ（澤貴幸会長）では、ウニの除去作業のほかに、余別川保護河川上流域で植樹作業を行い、森の栄養を川を介して海に供給して海藻の成長を促がす、森と川と海を保全する取組を行っています。

「半世紀の課題」新しい研究に期待

今回訪れた各大学の研究者の視察に、松井町長からは、「磯焼け対策は、北海道日本海沿岸全域に共通した半世紀にわたる深刻な課題です。海藻の再生に繋げる決定打が今も見出せない状況が続いています。ぜひ、若い研究者の努力が、将来の沿岸漁業の救世主に繋がることに大きな期待を寄せています。」と、激励していました。

積丹町敬老会

～ 552 名の長寿を祝福～

高齢者の方々の長寿と健康を祝う「積丹町敬老会」（鎌田淳史実行委員長）が9月20日、町総合文化センターで華やかに開催されました。

今年の敬老対象者は、昭和18年9月30日以前に生まれた75歳以上の方々。今回は新たに41名を加え、町全体では552名が対象者となり、この日は90名が参加しました。

当日は今年88歳の米寿を迎えられた29名のうち、出席された8名の方々に松井町長から祝品が手渡され、長い人生の節目を祝いました。

祝宴では、びくに保育所の園児によるリズム遊び、婦人会の方々による歌や舞踊、敬老者自身によるアトラクションも披露され、会場は拍手や歓声が響き渡り、大いに盛り上がりしました。

出席者の方々は、友人とのつかの間の歓談と交流の時間を楽しみ、次回の再会を約束していました。

町内の最長寿者は97歳の5名、当日参加の最長寿者は93歳の加藤傑貫さん（幌武意町）でした。

皆さんの末永いご長寿とご健康をお祈り申し上げます。



米寿の松本幸子さんはアカペラで「白虎隊」を熱唱。



米寿の嶋田マサ子さんは「鳥取砂丘」を熱唱。



▲美国小学校を訪問

8月22日から25日まで4日間の行程で、姉妹都市高知県香美市内の小学校児童7名（引率3名）が来町しました。

来町した児童は、鯉伝習館やマシメ番屋や水中展望船、黄金岬などを見学。水鳥町水産技術指導員からはウニ殻を使った「ウニランタン」の作り方を学びました。



▲ヤマシメ番屋を見学

また、美国小学校を訪問し、町内小学校の5・6年生と両市町の紹介やレクリエーション、給食を一緒に食べて交流を深めたほか、町内での宿泊のうち1泊は、児童宅へのホームステイが行われ、一泊を共に過ごした両市町の児童らは友情を更に深め、再会を約束していました。

冬には、当町の6年生が香美市を訪問する予定で、未来を担う新しい世代の交流の発展に期待しましょう。

姉妹都市交流

香美市児童7名が積丹へ！